

2019年度 西南学院の決算概要について

西南学院をはじめ私学振興助成法により補助金の交付を受ける学校法人は、学校法人会計基準の定めに従い会計処理を行い、計算書類(決算書)を作成する必要があります。本学院の2019年度決算は、5月11日に監事監査を終了し、5月29日の定期理事会において承認されましたので、その概要についてご報告いたします。

(1) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、当該年度の「教育活動」「教育活動以外の経常的な活動」「その他の活動」に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容及び均衡の状態を明らかにするためのものです。

教育活動収支の収入の部においては、2019年度から法科大学院に係る特別補助が対象外となったこと等により予算比で0.7億円少なくなりました。支出の部においては、教育研究経費3.0億円、管理経費1.0億円の予算残等の結果、予算比で4.8億円少なくなりました。人件費は77.1億円であり、経常収入に対する割合は59.1%で、全国平均(同系統法人平均)53.0%より大きな割合を占めています。教育研究経費は、前年度実績より0.5億円減少となっていますが、経常収入に対する割合は25.0%で、全国平均(同系統法人平均)33.4%より少ない割合となっています。

事業活動収入は、前年度実績、予算比ともにほぼ同額です。事業活動支出は、前年度実績より1.6億円増加しましたが、予算比では5.8億円少なくなりました。この結果、基本金組入前当年度収支差額は、予算より5.8億円改善され、12.3億円となっています。事業活動収支差額比率は9.3%です。

基本金組入額は、中学校・高等学校体育館天井落下防止工事、大学院棟・西南クロスプラザ空調更新工事、汀寮・碧波寮の国際寮への転換工事、東キャンパス西側塀改修工事、SAINS19システム更新、1号館パソコン教室増設等に伴う第1号基本金2.5億円、西南会館、学術研究所、新講義棟建築設備のための第2号基本金3.7億円、大学奨学基金、教育研究振興基金のための第3号基本金1億円等です。なお、備品の耐用年数が満了となったことによる基本金取崩1.1億円を計上しています。

基本金組入後の当年度収支差額は、予算より9.5億円好転し、5.0億円の収入超過となっています。この結果、前年度繰越収支差額を加えた翌年度繰越収支差額は29.1億円の支出超過となっています。

(2) 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容並びに支払資金のてん末を明らかにするための計算書です。

2019年度の資金収入は187.6億円であり、前年度繰越支払資金86.6億円を合わせた資金収入の部合計は274.2億円となりました。一方、当年度の資金支出は174.6億円となっています。

資金収入の部合計から当年度資金支出合計を控除した、翌年度繰越支払資金は前年度より13.0億円増加して99.6億円となりました。

(3) 貸借対照表

貸借対照表は、年度末における学校法人の財政状態を示しています。

2019年度末での資産の部合計は714.7億円で前年度より14.0億円増加、負債の部合計は61.0億円で前年度より1.8億円増加しました。その結果、純資産の部は前年度より12.3億円増加して653.7億円となりました。

資産714.7億円の内訳は、固定資産では、有形固定資産が419.9億円、各種引当資産である特定資産が122.4億円、有価証券等を含むその他の固定資産が66.9億円、流動資産は、現金預金99.6億円を含めて105.5億円となっています。また、2009年度末以降、借入金はありません。